

房総国際芸術祭

アート×ミックス 2027

開催基本方針

令和7年7月28日

房総国際芸術祭実行委員会

目 次

1	背 景	2
2	開催趣旨	4
3	取組方針	4
4	開催概要	5
5	事業内容	7
6	運営方針	8
7	連携事業	9
8	スケジュール（概要）	10
9	実施体制	11
10	成果検証	11

1 背景

(1) 房総の特色

太平洋に突き出た房総半島にある千葉県は、首都圏にありながら三方を海に囲まれ、豊かで風光明媚な自然を有しています。恵まれた自然を活かし、農業・水産業・醸造業により発展した後、東京湾岸地域に大規模な工業地帯が形成されるとともに、成田空港の開港、東京湾アクアラインの開通等により、地域経済の活性化がもたらされ、バランスのとれた産業県として発展してきました。

県の中心部に属する市原市・木更津市・大多喜町は、豊かな自然や歴史、文化を有し、都心や国際空港からのアクセスが優れており、臨海部には日本有数のコンビナートや商業施設を併せ持ち、そこで働く人々の住宅地が広がっています。

一方で、多様な地域資源と立地の優位性をもちながら、人口減少や少子高齢化に伴う廃校や空き家・空き店舗、地域コミュニティの衰退、有害鳥獣被害等の共通の課題も抱えています。

(2) アートを取り巻く環境

国では、平成29年6月に「文化芸術基本法」を改正し、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業その他の関連分野における施策を法の中に位置づけました。

また、地域が持つ有形・無形の文化資源を活用し、文化振興を起点とした観光による交流人口の増加、それに伴う消費活動の拡大や外的資本の獲得による地域経済の活性化へつなげ、その経済効果が新しい文化の創造を含めた文化振興に再投資される好循環を創出することを目指し、令和2年に「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（文化観光推進法）が制定されました。

千葉県では、平成30年の「千葉県文化芸術の振興に関する条例」の制定を受け、令和4年に「千葉県文化芸術推進基本計画」を、令和7年には「第2次千葉県文化芸術推進基本計画」を策定しています。その計画の中で、「文化芸術」とは一人ひとりの個性を育み、生きる喜び、感動、安らぎをもたらすものであり、個人や様々なコミュニティの構成員としての誇りやアイデンティティを形成する心のよりどころとなるものとし、誰もが文化芸術に触れ、誰もが自信を持って表現できるよう、文化芸術の発展につなげる取組を進めています。

そして昨今、新潟県の大地の芸術祭、香川県の瀬戸内国際芸術祭をはじめとした日本の多くの地域で芸術祭が開催されており、アートの力を活かすことで、離島の再生、住民参加、国際的な文化ブランドの確立等を実現しています。

(3) 経緯

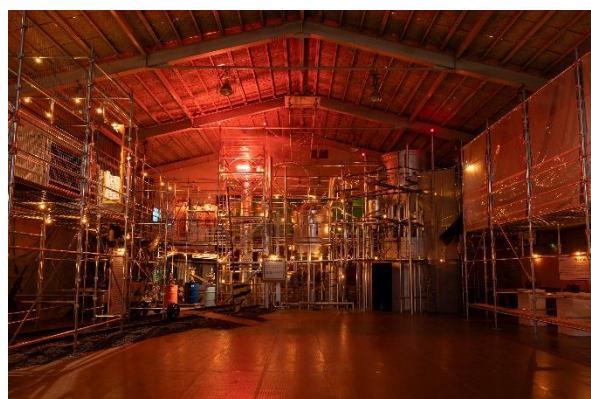
これまで市原市では、廃校・空き家や地域経済・コミュニティ等の課題解決に向け、アートを通じた住民参加の力を交流人口の拡大や地域活性化に活かすため、平成26年からトリエンナーレの芸術祭として「いちほらアート×ミックス」を開催してきました。

過去3回の開催を通じ、廃校や空き家・空き店舗の利活用、地域住民の参画、アーティストとの協働を通じて、地域の持つ魅力の再発見と活用に取り組んできました。

この成果やレガシーを活かした更なる発展に向け、「広域連携」「官民協同」による初の試みとして、アート・クリエイティブ・テクノロジーの力を融合し百年後の新しい未来を創っていくための持続可能なプラットフォームとしての芸術祭を目指し、市原市等内房総5市を舞台にした「百年後芸術祭-内房総アートフェス-」を開催しました。



木村崇人 森ラジオステーション×森遊会



豊福亮+5名 里見プラントミュージアム



小谷元彦 V (仮設のモニュメント5)



Photo by Takao Iwasawa

通底縁劇・通底音劇「super folklore」

2 開催趣旨

千葉県誕生150周年記念事業を通じて再認識された多様な魅力や、記念事業により築かれた多様な主体との連携体制という貴重なレガシーを、今後の地域づくりや文化振興に活かしていくこととし、千葉県、市原市、木更津市、大多喜町が連携して「房総国際芸術祭 アート×ミックス 2027」を開催します。

自然や歴史、文化、食といった地域資源とアートを掛け合わせることで、魅力を引き出し、国内外問わず多くの来訪者を惹きつけ、消費活動の拡大を通じた活性化を実現し、その経済効果が地域に再投資される好循環を創出します。

また、住民が作家とのつながりの中で自分たちの「まち」の良さを再発見し、地域への誇りと愛着を醸成します。

本芸術祭では、アートの持つ力を最大限活用し、各自治体の枠組みを超えた地方創生として、それぞれのポテンシャルを活かしたアートを展開し、交流・定住人口の増加につなげるとともに、『房総』ブランドの確立による持続的な地域活性化を目指します。



3 取組方針

- 東京湾（里海・工場地域）、住宅地域、里山地域、歴史ある街並みを縦断し、地域の魅力を感じられるエリア構成とします。
- 時間や労力を節約し、生産性の向上を図る「効率化」が求められる現代社会において、その場でしか味わうことのできない、五感で体験するアート作品を展開します。
- 世界に向けて開けた国際芸術祭として、国内だけでなく各国から多様な作家も招聘し、海外からの観光客も誘致します。
- 地域の住民が芸術祭の作品制作や会場運営に主体的に参加できる仕組みを作ります。また、子どもたちがアートに触れることのできる機会を創出します。

4 開催概要

■事業名称

房総国際芸術祭 アート×ミックス^{ニーゼロニーナナ}2027
Boso Triennale 2027

■コンセプト

- 太平洋を臨むフロンティア 房総半島
→海外への開口部の一助となる国際的な芸術祭へ
- 里海から里山まで、日本の縮図を旅する
→東京湾（里海・工場地域）、住宅地域、里山地域を縦断
- 身体感覚をともなうアート作品
→効率化とは異なる五感で体験する芸術祭

■会期

令和9（2027）年3月6日（土）～5月30日（日）
※火・水曜日定休（GWは除く）、64日間

■会場

千葉県市原市、木更津市、大多喜町の各地

■主催

房総国際芸術祭実行委員会
（千葉県、市原市、木更津市、大多喜町）

■総合プロデューサー 小林 武史・・・音楽、アート、食

■総合ディレクター 北川 フラム・・・アート、広報、運営

■アートディレクター 豊福 亮

■デザインディレクター 長嶋 りかこ

■実行委員会の構成（敬称略）

- 名誉実行委員長 熊谷 俊人（千葉県知事）
- 実行委員長 小出 譲治（市原市長）
- 副実行委員長 渡辺 芳邦（木更津市長）
平林 昇（大多喜町長）
- 監査役 榊原 義久（市原商工会議所会頭）
池田 庸（木更津商工会議所会頭）

○オブザーバー（50音順）

イオンモール株式会社 イオンモール木更津
いすみ鉄道株式会社
株式会社イトーヨーカ堂 アリオ市原店
一般社団法人大多喜町観光協会
大多喜町商工会
一般社団法人木更津市観光協会
木更津市富来田商工会
君津信用組合
株式会社 KURKKU FIELDS
株式会社京葉銀行
小湊鐵道株式会社
株式会社千葉銀行
公益社団法人千葉県観光物産協会
公益財団法人千葉県文化振興財団
株式会社千葉興業銀行
株式会社千葉ステーションビル
千葉テレビ放送株式会社
株式会社千葉日報社
成田国際空港株式会社
日東交通株式会社
日本放送協会千葉放送局
東日本高速道路株式会社関東支社 市原管理事務所
東日本高速道路株式会社関東支社 東京湾アクアライン管理事務所
東日本旅客鉄道株式会社千葉支社
株式会社ベイエフエム
養老溪谷観光協会
株式会社良品計画 MUJI BASE OIKAWA

5 事業内容

(1) アート作品展示

気鋭の作家を国内外から招聘し、アート作品を展開します。また、本芸術祭のコンセプト・開催趣旨に賛同する作家を選定するほか一部は公募します。

来場者が里海から里山まで、日本の縮図を旅しながらアート作品を鑑賞できるよう、拠点となる地域を設定します。

ア 市原市

県内一の市域を有し歴史や自然資源が豊富な特性や、これまでに開催した「いちほらアート×ミックス」・「百年後芸術祭-内房総アートフェス-」のレガシーを活かしたエリアを展開します。

市の玄関口であり市域を縦貫する小湊鉄道の発着地となる五井駅周辺をはじめとする湾岸地域、かつて上総国の国府が置かれ国内最大規模の上総国分尼寺跡が広がる国分寺台周辺、これまでの芸術祭で展開した牛久・里見等の小湊鉄道沿線や市原湖畔美術館、廃校等において作品展開を検討します。

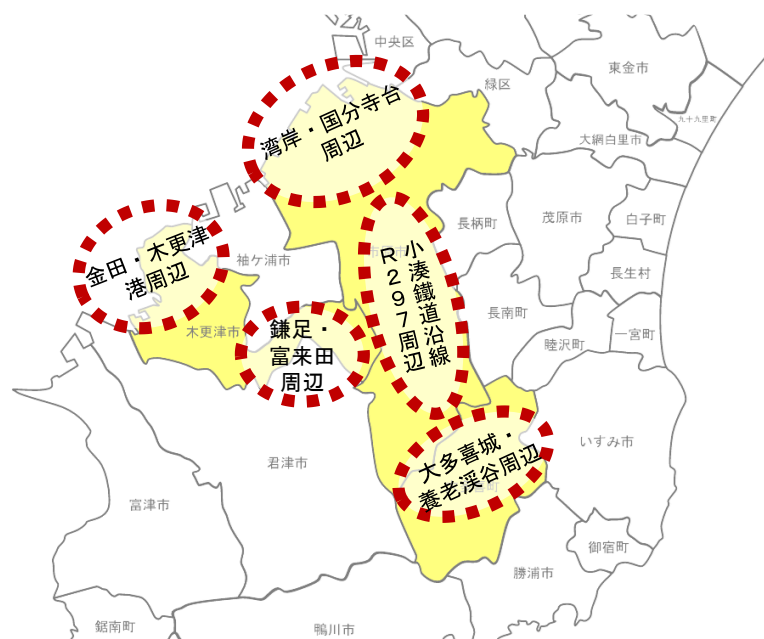
また、大多喜町との連結動線となる国道297号沿線や養老溪谷周辺等における作品展開も検討します。

イ 木更津市

「百年後芸術祭-内房総アートフェス-」では、東京湾アクアラインの着岸地であり、開発が進む海側の金田・木更津地区に作品を展開しました。これらの地区とあわせて内陸部に焦点を当て、人口減少・高齢化、鳥獣被害等の地域課題を抱えている富来田地区において、地域住民が守ってきた豊かな自然環境と農林・歴史的資源をつなぐ作品展開を検討します。

ウ 大多喜町

大多喜城を中心に城下町として栄えた歴史を持ち、多くの文化財や歴史的建造物が立ち並び、歴史のある街並みを残す城下町エリアを中心とした作品展開を検討します。



(2) 音楽・ライブパフォーマンス

小林武史総合プロデューサーによる音楽・ライブパフォーマンスを実施します。会場は各自治体と対話し、2市1町において1回以上実施する方向で調整を進めます。

(3) その他

2市1町において、アーティストによるワークショップ形式の体験プログラムや、地域で活動する団体とのコラボレーション企画、「食」に関するプログラム、サイクルツーリズム等の各種イベントを開催します。

6 運営方針

(1) 広 報

住民に対しては、「地域への愛着と誇り」を感じていただけるよう、各自治体の広報誌や公式ウェブサイトの活用や、地域情報誌や地元のテレビ、ラジオ、ケーブルテレビ等の身近な媒体と連携した、きめ細かなPRを行っていきます。

地域外に対しては、公式ウェブサイトやSNS等の多様な媒体を活用した情報発信を行うほか、商業施設や交通事業者等の協力をいただきながら、広域的な発信に努めます。

(2) インバウンド対応

開催エリアは、成田・羽田の両国際空港から1時間以内の立地であり、インバウンドの獲得に向けて海外・域内双方におけるプロモーションに取り組みます。

また、公式ウェブサイトの多言語対応や案内看板の英語表記等に取り組み、インバウンド向けのツアーの造成も検討します。

(3) 交 通

開催エリアは広域であり、来場者の周遊利便性を向上させるべく、シャトルバスの運行や公共交通機関との連携を図ります。また、自家用車での来場者も多く想定されるため、各会場付近には、公共施設や企業、個人の協力を仰ぎ可能な限り駐車場の確保に努めます。加えて、交通手段としての自転車の活用を検討します。

(4) ボランティア・サポーター

これまでの芸術祭でも、継続的に作品制作や会場運営・案内といった様々な取組をサポートしていただいているボランティア・サポーターや地域住民、企業ボランティアと連携し、来場者に「おもてなし」を提供します。

(5) グッズ

本芸術祭のブランドイメージ定着化を図るため、統一的かつ洗練されたデザインのもと、グッズ展開を行います。

販売については、総合案内所や主要な拠点に配置するほか、商業施設、商工会議所や観光協会等と連携して幅広い販売ネットワークを構築します。

また、地域外から訪れる方向けに、地域の特産品の紹介や販売できる機会を創出します。

(6) 飲食店等との連携

近隣の商業施設や飲食店、宿泊施設等と連携し、地域内での消費が高まる仕掛けを創出します。

(7) 会場運営（警備含む）

各エリアを訪れた来場者が安全・快適に芸術祭を楽しめるよう、円滑な会場運営に努めます。

アート作品展示期間中、各会場において、サポーター組織、民間企業、会場周辺の市民の皆様にも、受付・案内にご協力いただけるよう働きかけます。

多くの来場者が予想される際には、豊富な経験を持つ専門事業者に警備・運営業務を委託します。

障がいのある人、お年寄り、子ども、誰もが安全に楽しく本芸術祭に参加できるよう、バリアフリーな会場づくりに努めます。

7 連携事業

(1) 構成自治体との連携

各自治体と共に、本芸術祭を盛り上げ、来場者をおもてなしする連携事業を計画していきます。

(2) 民間との連携

オブザーバーや地域の民間企業、団体とも情報共有を図りながら、官民で連携した取組を実施します。

(3) 他芸術祭との広域連携

全国で開催されている地域型芸術祭の運営主体と協力し、相互に広報協力を行い、芸術祭ファンの拡大に努めます。

特に、同じ半島同士であり、令和6年能登半島大地震の被災地である奥能登国際芸術祭の復興支援策を検討します。

(4) 学校との連携

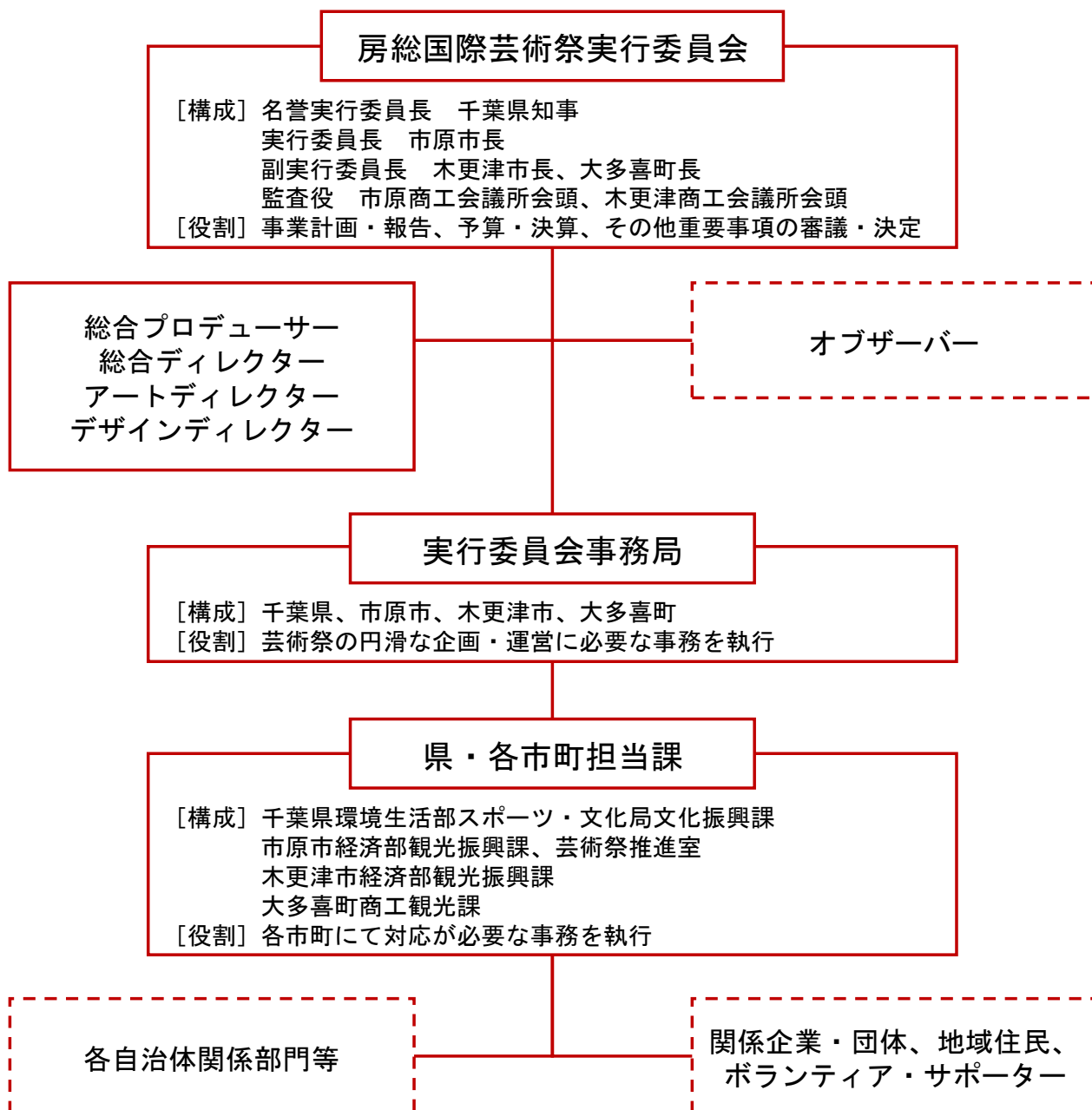
未来を担う子どもたちを育成するため、各教育委員会や学校等に呼びかけ、本芸術祭への参加促進を図ります。

具体的には、団体・グループでの見学や、アート作品の制作過程への参加や会期中のワークショップの開催といった、アートを体験・体感できる機会の創出に努めます。

8 スケジュール（概要）

	概 要	
令和7年 7月	第1回実行委員会総会	
令和7年 秋頃	オブザーバーツアー	企業向けツアー
令和8年 1月	第2回実行委員会総会	実施計画策定
春頃	作家公募ツアー	プロモーション
6月	県民の日中央行事 (木更津市で開催)	
夏頃	企画発表会① (作家紹介【都内】)	
令和9年 1～2月	企画発表会② (作品紹介)	
3～5月	令和9（2027）年3月6日～5月30日 2市1町で開催	
秋頃	第3回実行委員会総会	

9 実施体制



10 成果検証

来場者数（全体、エリア別、コンテンツ別等）、イベント入場料及び作品鑑賞パスポート販売、公式グッズ売上等の実績データを積み上げます。

また、これらの実績値や来場者へのアンケート調査等のデータの分析を専門の外部機関と連携しながら、経済波及効果等を推計し、成果検証を実施します。

房総国際芸術祭 アート×ミックス 2027
開催基本方針

(作成)
房総国際芸術祭実行委員会

[実行委員会事務局]

〒292-8501

木更津市富士見一丁目2番1号木更津市役所観光振興課内

Tel : 0438-38-6563

Fax : 0438-23-0075

Mail : jimukyoku@boso-artmix.com